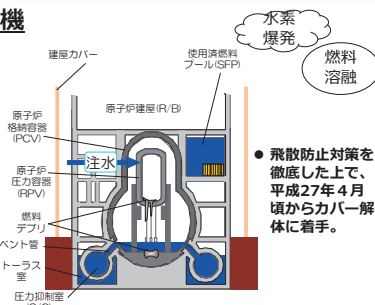
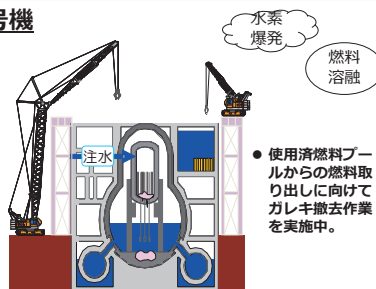


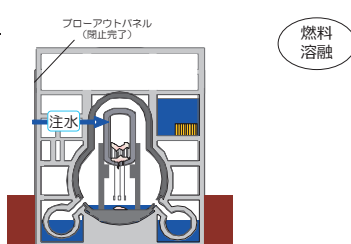
1号機



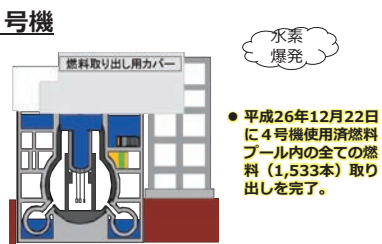
3号機



2号機



4号機



現在、原子炉は安定的に冷温停止状態に維持されていますので、東京電力福島第一原子力発電所事故当時に比べ原子炉建屋から放射性物質の放出も大変少なくなっています。

東京電力福島第一原子力発電所の建屋上部等で採取した空気を分析し、1～4号機の原子炉建屋から放出されている放射性物質（セシウム）の量を評価したところ、平成27年10月時点で1時間当たり約61万ベクレル未満となっています。また、年間の被ばく量に計算すると、原発敷地境界において0.0019ミリシーベルト/年未満と、自然放射線による年間線量（日本平均2.10ミリシーベルト）の1,000分の1未満です。

本資料への収録日：平成25年3月31日

改訂日：平成28年1月18日